

一歩、一歩、また一歩と応えていきたい

ほどよい健康に恵まれて 78 才の誕生日を迎えることができましたことは、ひとえに皆様の暖かい見守りによるものと感謝いたしております。これを機に 3 年間に亘ってお世話いただいた右肩腱板損傷修復術後のリハビリ治療を自主訓練に切り替えることに致しました。長い間のご治療有難うございました。

透析医療にどっぷりと取り組んで 44 年になりますが、財団はまゆう会は今年で 30 周年を迎えることとなります。巷間の俗説によりますと企業(組織)の命運は 30 年と言われていきます。皆様は、今日のはまゆう会をどのように位置付けられ、あなたにとってどのような意味を持つとお考えでしょうか。

私共が今ここに集う事実は、お一人おひとりにとってまるで奇蹟の様なことです。懐かしい先達たちは、「まだまだ頑張りましょうね」との優しいお言葉を残されながらも、お一人おひとりと目前から去られ、私は日々孤独な寂寥感に駆られておりますが、この不思議なご縁を奇貨として、一歩、一歩、また一歩とこれからも今できることに勇気を持って応えていきたいと思っております。

お心尽くしの一本のバラの花に託して。感謝。

平成 30 年 1 月 19 日

市丸 喜一郎